

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒  
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

白毛門・朝日岳ー谷川岳を觀望するー



白毛門(松ノ木沢ノ頭から)

9月中旬、谷川連峰の白毛門(シラガモン)を登った。私が若い頃、積雪期に悪戦苦闘した思い出の山である。今回は、土合から白毛門(1720m)・笠ヶ岳(1852m)・朝日岳(1945m)経由で、蓬峠から土樽に下山の計画である。途中が避難小屋泊のこの山行は、寝・炊具などで結構荷が重い。JR土合駅の長い階段を登り、白毛門登山口に着いたのが10時半。ここからの登りは樹林帯の中、最初から木の根にすぎりながらの急な登りである。汗みずくになって13時、やっと松ノ木沢ノ頭に到着し視界が開けた。ここから眺める一ノ倉沢など谷川岳東面の岩壁は、思わず身震いするほどの迫力である。



松ノ木沢ノ頭からの谷川岳東面(秋)



見上げるジジ岩・ババ岩

前を見上げれば、白毛門のシンボルのジジ岩とババ岩はまだはるか遠く、疲れた身にはウンザリである。

手掛かり足掛かりを慎重に選びながら岩場をよじ登り、白毛門山頂到着が13時45分。ここでも谷川岳東壁の威容をトクと鑑賞しながら30分の大休止にした。後は灌木混じりの尾根道の登り下りを繰り返して15時、笠ヶ岳到着。山頂直下の避難小屋を今夜の寝所と定めた。笹原にポツネンと佇むこの小屋は、2～3人が何とか横になれる程度、犬小屋に毛が生えた程度の大きさであ



笠ヶ岳避難小屋

る。一人旅の身には黄金の御殿と言いたいところだが、水がないのが玉に

キズである。手持ちの水1ℓを節約しての夕・朝食はわびしい。翌朝5時出発。ガスの中、喉の渴きを我慢しながら朝日岳への岩稜をたどる。6時半地蔵尊のある朝日岳山頂を越え、朝日ノ原水場に行き着いた時は正直、



笠ヶ岳から望む七ツ小屋山・ジャンクションピーク・朝日岳

地獄で仏の心境だった。赤ん坊のように水をガブ飲み。朝日ノ原の木道は1km程も続いているが、残念ながらこの時期、花の姿は皆無だった。ジャンクションピークを過ぎた頃からガスも上がり、遙かに清水峠の送電線監視小屋の赤屋根が見えてきた。快適な草原散歩で清水峠到着が8時半。後はクマザサの尾根道が延々と続き、七ツ小屋山10時、蓬峠が11時。最後が、長い長い下りに息を切らし、JR土樽駅到着が15時となった。